

令和8年度 自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 主体性を引き出す「質の高い授業」と「自分の探究を語ることができる学び」を創造する。	① 本校が目指す「質の高い授業」の具体的な姿について、教員が授業評価の項目を意識する。また、相互授業参観等を通じて、積極的に授業研究を行い、生徒の主体性を引き出す。	教務課	昨年度授業評価の「先生の熱意や工夫が感じられる」という質問項目に、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合は59.6%であった。	【成果指標】 「先生の熱意や工夫」により、生徒が「新たな気づきを得ることができる」ような主体性を引き出す「質の高い授業」を実施している。	「この授業は、以前学習した知識や考え方(他教科も含む)がつながり、新たな気づきを得ることができる」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
			昨年度授業評価の「授業の中では、先生は考える場面を設けている」という質問項目に、「よくあてはまる」と回答する生徒の割合は60.6%であった。	【成果指標】 「考える場面」をつくるだけにとどまらず、「じっくりと頭を使い、考え抜く場面」を設定し、生徒の主体性を引き出す「質の高い授業」を実施している。	「授業の中で、じっくりと頭を使い、考え抜く場面がある」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
	② 「総合的な探究の時間」等の活動を通じ、生徒が自ら解決したい、解明したいと考える問いを、試行錯誤や葛藤を繰り返しながら解決策を導き出すプロセスを支援する。その過程に価値を置き、学びを通じて「世界の見え方」や「自分自身」がどのように変化したかを、自分の言葉で語れるようにする。	探究推進課	外部機関への訪問やフィールドワーク等、生徒自ら現場へ赴く積極的なアクションが見られるようになり、本校の探究活動の質が着実に向上している。今後は、こうした一歩踏み出す姿勢を学校全体の文化として定着させ、探究活動の中で挑戦する生徒の裾野を一層広げていきたいと考えている。	【満足度指標】 探究活動の中で様々なことに挑戦することで、自身の成長を感じる。	「私は、総合的な探究の時間の中で、今まで自分が苦手であったり自信がなかったりしたことに挑戦している」という質問項目に (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
			様々な活動を通じて得た経験や学びを、まとめたリ言語化したりする機会が少ない。	【満足度指標】 活動を通じて得た経験や学びを客観的に捉え直し、自分の言葉として整理することができる。	「私は、総合的な探究の時間や行事など、様々な活動を通じた経験や学びを言語化して他者に伝えることができる」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
2 志望へのこだわりを掘り起こし、粘り強い努力を支え抜く「伴走型の進路指導」を実践する。	③ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導課	今春の受験の結果 難関大学合格数18名(現役14名+既卒4名) 金沢大学合格数67名(現役63名+既卒4名) 国公立大学合格数279名(現役257名+既卒22名)	【成果指標】 ア 難関大学合格数 20名以上 イ 金沢大学合格数 80名以上 ウ 国公立大学合格数 250名以上	A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	Dの場合、指標目標を検討する。	3月中旬の国公立大学中期後期の合格発表後の集計による。
			昨年度学校評価の「進路選択・コース選択に関し、ホーム担任等との懇談により、本人・保護者が理解した上で決定されている」という質問項目に、「よくあてはまる」と回答した保護者の割合は、33.5%であった。	【満足度指標】 進路に関する適切な情報提供と丁寧な対話に基づいた、進路選択・コース選択ができています。	「進路選択・コース選択に関し、ホーム担任等との懇談により、本人・保護者が理解した上で決定されている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 35%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(保護者)で調査する。

令和8年度 自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
<p>3 校訓「質実剛健」のもと、自らを律し、他者を尊重できる「内省的な生徒指導」と生徒に寄り添う「組織的な教育相談」の充実を図る。</p>	<p>④ 登下校指導、街頭指導、挨拶運動等を通して、規範意識を向上させるとともに、すべての教員が一丸となって生徒に声かけを継続して行うことで、生徒の人権意識を高め、「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進する。</p>	<p>生徒指導課</p>	<p>素直な生徒が多いため、教師による指示でルールや規範意識が全体として維持できる半面、指導を緩めると望ましい態度や行動からの逸脱に流れる傾向が見られる。望ましい在り方・生き方を自発的・自立的に考え行動する「自己指導能力」を獲得できるように、生徒指導の方法を転換していく必要がある。</p>	<p>【努力指標】 一方的な指示や押しつけによるのではなく、対話を通じて、生徒の「自己指導能力」を育んでいる。</p>	<p>「私は、ルールや規範意識・モラルについて『問いかけ』によって、生徒が自らの行動やあり方を望ましいように変えるよう指導している」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(教員)で調査する。</p>
			<p>昨年度学校評価の「私は、他人の気持ちに配慮し、適切な言動を心がけるようにしている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合は97.1%であった。</p>	<p>【成果指標】 生徒が自分自身を大切にするとともに、他者を尊重し、状況に応じた言動を心がけるようになる。</p>	<p>「私は、他人の気持ちに配慮し、適切な言動を心がけるようにしている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 98%以上 B 95%以上 C 92%以上 D 92%未満</p>	<p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(生徒)で調査する。</p>
	<p>⑤ 各課や学年が連携を密にし、学校全体で組織的に対応することによって、生徒の悩みが深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい体制を整える。</p>	<p>相談課 生徒指導課 保健課 各学年</p>	<p>昨年度学校評価の「本校は、悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態等)を相談しやすい」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合は82.6%であった。生徒自身は相談しやすい環境だと捉えているが、近年は悩みの多様化も見られ、更なる相談体制の充実を図りたい。</p>	<p>【成果指標】 生徒が自分の抱える悩みや課題について、教職員に気軽に相談することができる。</p>	<p>「本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態等)を相談しやすい」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(生徒)で調査する。</p>
			<p>昨年度学校評価の「相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合は89.2%であった。ただし、9.2%の教職員が「わからない」と回答していることから、全職員が生徒のサインを見逃さず、連携をしていく体制を整えていきたい。</p>	<p>【成果指標】 悩みや問題を抱える生徒の早期発見のために、生徒の状況を把握・共有し、組織的に対応する。</p>	<p>「相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>Dの場合、改善策を検討する。</p>	<p>学校評価(教員)で調査する。</p>

令和8年度 自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 校是「文武両道」の実践を目指し、限られた時間の中で、「高め合い分かち合う部活動・学校行事」を充実させ、本校の魅力として発信するとともに、学校の見える化を進めることで「協働的な保護者との信頼関係」を構築する。	⑥ 部活動等の活性化及び競技力・表現力の向上を図り、その成果をより大きな舞台で発揮できるようにする。	生徒指導課	<p>昨年度学校評価の「私は、限られた時間の中で効率的・効果的な部活動に取り組んでいる」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合は、それぞれ85.1%であった。</p> <p>本校において、部活動は学校生活の充実と自身の成長を促す大切な場となると考えている。昨年度の部活動加入状況は90.7%(運動部63.0%、文化部27.7%)であり、ほとんどの生徒が校是「文武両道」の実践を目指し学校生活を送っている。</p>	<p>【満足度指標】 限られた時間の中で、自身のパフォーマンス向上に向けた創意工夫を重ねるとともに、効率的な練習方法を周囲に提案・波及させることで、部全体が成長できる環境づくりに努めている。</p> <p>【満足度指標】 部活動を通して学校生活の充実や自身の成長を感じている。</p>	<p>「私は、限られた時間の中で効率的・効果的な部活動に取り組んでいる」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p> <p>「部活動は学校生活を充実させ、自らを成長させるために役立っている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
	⑦ ホームページやメール配信、学年通信等を通し、本校の教育活動について積極的に発信するとともに保護者の学校への来校、行事の参加を促す。	総務課	<p>昨年度学校評価の「学年・ホーム通信・ホームページ等により教育活動がわかる」及び「メール配信システムは、学校行事などの予定など学校の教育活動を知る一手段となっている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した保護者の割合は、それぞれ84.2%、96.2%と高値ではあるが、すべての保護者が十分と考えていない。</p> <p>昨年度学校行事に参加した保護者等の延べ人数は4075名であった。内訳は、入学式493名、PTA総会341名、桜高祭1491名、学校公開82名、進路説明会678名)、3S歩行238名、学校訪問(中学校PTA) 312名、卒業式440名であった。今後とも多くの方々に来ていただけるよう、各課・各学年等と連携して取り組んでいく。</p>	<p>【満足度指標】 積極的、具体的な情報発信を行い満足度を高める。</p> <p>【成果指標】 保護者が教育活動に理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。</p>	<p>「学年・ホーム通信・ホームページ等により教育活動がわかる」及び「メール配信システムは、学校行事などの予定など学校の教育活動を知る一手段となっている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない 両質問項目ともに(ア)+(イ)が A 両項目95%以上 B 両項目90%以上 C 一方が90%以下 D 両項目90%未満</p> <p>本年度、下記の学校行事に参加した保護者等の延べ人数が A 4500名以上 B 4000名以上 C 3500名以上 D 3500名未満 行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式</p>	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(保護者)で調査する。
						Dの場合、学校行事の内容やPR方法を検討する。	各学校行事の来校者実績で集計する。

令和8年度 自己評価計画書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
5 学校安全・防災力を高めたり、様々な教育課題を解決するために全教職員による「貢献的チームワーク」を構築するとともに、新しい挑戦や生徒と向き合うための「余白を生み出す働き方改革」を推進する。	⑧ 各課や各学年及び部活動顧問の連携を密にし、学校全体で組織的に生徒の病気やケガ予防等の意識を高め、自分自身で体調管理やケガ防止に努めることが出来るようになる。また生徒が自分の安全は自分で守る意識を持ち、災害時においても適切な判断で主体的に行動できるよう、安全管理マニュアルの更なる見直しや避難訓練の充実を図る。	保健課 総務課	昨年度学校評価の「私は、食事や睡眠、生活リズムなど自身の体調管理や健康な生活に努めている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した生徒の割合は84.1%であった。	【成果指標】 生徒が、食事・睡眠・生活リズムなど、自身の体調管理や健康な生活に努めている。	「私は、食事や睡眠、生活リズムなど自身の体調管理や健康な生活に努めている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
			昨年度学校評価の「生徒の命や安全を守る使命感に基づき、防災や安全に対する意識を持って教育活動を行っている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」は、93.9%と高値であったが、「よくあてはまる」は26.2%に留まった。	【満足度指標】 災害安全の研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、以後、学校における安全安心の確保に役立てることができたと感じられる。	「生徒の命や安全を守る使命感に基づき、防災や安全に対する意識を持って教育活動を行っている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 50%以上 B 40%以上 C 35%以上 D 35%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
	⑨ 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営を行う。	管理職	教職員が校長のビジョンを理解・共有できており、今年度は、その実現・充実に向けた重要な1年である。	【努力指標】 教職員が目指すビジョンを共通し、その実現に向け、個々が自身の役割とカリキュラムマネジメントを意識しながら教育活動を行う。	「私は、本校の教育目標やビジョンを意識しながら教育活動を行っている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
			昨年度の学校評価において「本校は、各課・各学年が、互いに連携し、組織として有効に機能している」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した教員の割合は67.7%に留まり、30%以上のものが有効に機能しているとは感じていない。	【努力指標】 周囲に目を配りをし、サポートし合う集団として、組織的な学校運営を進める。	「各課・各学年が互いに連携し、組織として有効に機能している」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
	⑩ 会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実を努めるとともに、教員が自らの研鑽や挑戦できる環境づくりに務める。	管理職	昨年度の学校評価において「仕事の効率化やタイムマネジメントの意識を高めた業務の遂行に努めている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した教員の割合は80.0%と高値であったが、「よくあてはまる」は20.0%であり、改善の余地がある。	【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校、部活動休養日等を設けることにより、時間外勤務時間の縮減に努める。	「仕事の効率化やタイムマネジメントの意識を高めた業務の遂行に努めている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が80%以上且つ (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
			昨年度の学校評価において「私は、社会の変化にあわせて、新しい教育活動を模索したり挑戦したりしている」という質問項目に、「よくあてはまる・ほぼあてはまる」と回答した教員の割合は90.7%と高値であったが、「よくあてはまる」は13.8%に留まった。教員自らそのような姿を示すことは、生徒の向上心を刺激する上で大切であると考えている。	【努力指標】 働き方改革の推進による余白時間の創出と、職場の心理的安全性を担保することで、新たなことに挑戦する姿勢を醸成する。	「私は、社会の変化にあわせて、新しい教育活動を模索したり挑戦したりしている」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が80%以上且つ (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。